

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和6年度】

2025 年 3 月 31 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 101-0047

所在地 千代田区内神田2-7-4 三井ビル3階

評価機関名 株式会社 評価基準研究所

認証評価機関番号 機構 12 - 218
電話番号 03-3251-4150
代表者氏名 代表取締役 谷口仁宏 印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	筒井 正人	経営	H1701016
	②	高田 浩美	福祉	H2201043
	③	谷口 仁宏	福祉、経営	H0305043
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	株式会社アイ・エス・シー ウィズブック保育園東高円寺			
事業所連絡先	〒	166-0003		
	所在地	東京都杉並区高円寺南2-34-24 チアフルCOCO1階		
	Tel	03-5929-8718		
事業所代表者氏名	園長 長谷川 里織			
契約日	2024 年 7 月 1 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2024 年 11 月 6 日			
利用者調査結果報告日	2024 年 11 月 20 日			
自己評価の調査票配付日	2024 年 11 月 6 日			
自己評価結果報告日	2024 年 11 月 20 日			
訪問調査日	2025 年 2 月 7 日			
評価合議日	2025 年 2 月 7 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査・職員調査は、WEBでの調査を実施し、携帯電話・スマートフォン・パソコンによる回答を中心とし、紙ベース希望者には従来型の紙による回答も可能とした。利用者調査開始時には、調査の趣旨や手法などに関する詳細な説明と個別のID・パスワードを記した案内状を封緘封筒に入れて全家庭に配布し、職員向けにも同様の案内状を配布した。経営層には各標準項目の自己評価を的確に行うための独自資料を提供するなど、事業所向けの配慮も行っている。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2025 年 3 月 27 日

事業者代表者氏名 ウィズブック保育園東高円寺 園長 長谷川 里織 印

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 1)「子育てにかかわる保護者や人の成長」と「豊かな心と言葉を持つ子どもたちの育成」を実現し、人を大切にする社会を目指します。 2)その子らしさと自ら伸びるチカラを育みます。 3)子育てに頑張る保護者様や家族の成長に寄り添い、支援する存在であり続けます。 4)子どもたち、保護者様、保育士たちが育て合える場所や機会を提供します。 5)子どもにより豊かな人的環境を形成するため、地域社会との連携に努めます。
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上） （1）職員に求めている人材像や役割 ・保育士は子育ての専門家としての学びと、保護者さまへの子育て支援に努めます。 ・子どもにより豊かな人的環境を形成するため、地域社会との連携に努めます。 （2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感） 安全：一人ひとりが安全について意識を高く持ち、自ら動きます。 未来志向：子どもの未来の幸せにつながるか、共に笑顔で続けられることかを判断基準とします。未来の幸せのために常に子どもも大人も学び合い成長し、進化を楽しみます。 らしさ：関わる全ての子ども、大人のらしさを引き出し認め合い、融合します。保育で自信のある得意分野を持つことで、自分らしさを醸成します。 尊重：子どもの時間、一人ひとりの個性など、子どもに関わる全てのことを尊重します。職員同士、それまでの経験や立場を尊重し合いながら、子どもとその未来に共に向き合います。 自律：笑顔でいられるために、自立ルールを持ち一人で悩まず助け合い学び合う姿勢を大切にします。

調査対象

調査開始時点での本園の利用世帯15世帯(園児数16名)を対象として実施した。なお、兄弟姉妹がいる世帯は1世帯として扱った。

調査方法

調査項目は共通評価項目に準拠した。回答は、弊社オリジナルのWEBベース方式(パソコン・携帯・スマホ)で行った。WEBで回答できない保護者には書面の回答用紙を配布する。回答用紙は園経由で弊社宛に郵送してもらい、集計に加えることとする。

利用者総数
利用者家族総数(世帯)
共通評価項目による調査対象者数
共通評価項目による調査の有効回答者数
利用者家族総数に対する回答者割合(%)

16
15
15
15
100.0

利用者調査全体のコメント

総合的な感想では、園に対する満足度は「大変満足」が73.3%、「満足」が26.7%の合計100%であり、保護者から園への信頼は、非常に高い数値となっている。設問別では、「子どもの心身の発達」「園での活動が子どもの興味や関心を持って行える」「提供される食事」「自然や社会と関わる機会の確保」「保育の時間への柔軟な対応」「保護者へ行事日程の配慮」「職員との信頼関係」「園内の清潔さ」「職員の言葉遣いや態度」「けがや体調不良時の対応」「子どもの気持ちを大切にされた職員対応」「保育内容の説明」で、90%以上の利用者が満足であると答えている。また、「安全対策」「不満や要望への職員の対応」で80%の利用者が満足であると答えている。それ以外のすべての項目でも高い満足度であり、今後は今回保護者から出された個別意見の対応可能な事柄へのさらなる配慮や説明を充実させていただくことに期待したい。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	15	0	0	0
「はい」が100%という結果だった。自由意見では、「同年代のお友達との関わりから刺激もあるし、先生方の声がけも優しく、穏やかに過ごせていると思う」「身体を動かすことが好きになりました」などがあった。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	15	0	0	0
「はい」が100%という結果だった。自由意見では、「絵の具やねんど、お散歩など、家ではなかなか体験させられないことも経験できていると思う」「葉っぱを触ったり、トンネルくぐったりと、感覚と体と情緒の発達になっていると思う」などがあった。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	15	0	0	0
「はい」が100%という結果だった。自由意見では、「離乳食の進み具合やミルクの状況など、一人一人に合わせて配慮いただいている」などがあった。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	14	1	0	0
「はい」が93.3%、「どちらともいえない」が6.7%、「いいえ」「非該当・無回答」がそれぞれ0%という結果だった。自由意見では、「気候や気温に配慮して、無理しない程度に、できる限りおでかけをしていて、葉っぱを触ったり、靴で歩いたり走ったりも、経験できていると思う」などがあつた。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	15	0	0	0
「はい」が100%という結果だった。自由意見では、「柔軟に対応してください。申し訳なくお願いしていますが、嫌な顔せず、親に寄り添う声がけしてくれるのでありがたく感じます」などがあつた。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	12	3	0	0
「はい」が80.0%、「どちらともいえない」が20.0%、「いいえ」「非該当・無回答」がそれぞれ0%という結果だった。自由意見については特記事項はなかった。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	14	0	1	0
「はい」が93.3%、「どちらともいえない」が0%、「いいえ」が6.7%、「非該当・無回答」が0%という結果だった。自由意見については特記事項はなかった。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	15	0	0	0
「はい」が100%という結果だった。自由意見では、「お迎え時に都度声かけしてくれるので話しやすく、別途お時間をとって、相談にのってくれる雰囲気もあります」「先生方みなさんとても親切で安心して預けることができています」などがあつた。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	14	1	0	0
「はい」が93.3%、「どちらともいえない」が6.7%、「いいえ」「非該当・無回答」がそれぞれ0%という結果だった。自由意見については特記事項はなかった。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	15	0	0	0
「はい」が100%という結果だった。自由意見では、「子供に対しても優しく安心して預けられる環境だと思う」「どの先生も明るく優しいです。親との関わりも優しく話しやすく良い雰囲気だと思う」などがあつた。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	14	1	0	0
「はい」が93. 3%、「どちらともいえない」が6. 7%、「いいえ」「非該当・無回答」がそれぞれ0%という結果だった。自由意見では、「子供の体調も見守ってくれ、親の仕事の状況も理解してくださり、柔軟に対応してくださります」「頭の形の矯正ヘルメットの使用など、個別にお願いすることも柔軟に対応してくださり、とても感謝しています」などがあった。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	9	3	0	3
「はい」が60. 0%、「どちらともいえない」が20. 0%、「いいえ」が0%、「非該当・無回答」が20. 0%という結果だった。自由意見については特記事項はなかった。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	15	0	0	0
「はい」が100%という結果だった。自由意見では、「優しい声がけをしてくださり、帰宅しても、子供もニコニコな様子なので、穏やかに過ごせていると思います」「子どもの個性に合わせて保育していただいていると感じます」などがあった。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	12	1	1	1
「はい」が79. 9%、「どちらともいえない」「いいえ」「非該当・無回答」がそれぞれ6. 7%という結果だった。自由意見については特記事項はなかった。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	15	0	0	0
「はい」が100%という結果だった。自由意見では、「連絡帳にも様子を書いてくださっているし、お迎えの時にも様子を教えてくださいるので、だいたいの様子がわかるのと、写真でも様子を感じられています」「子どもの小さな成長によく気が付いてくださって毎日の連絡帳で教えていただけます」などがあった。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	12	2	0	1
「はい」が80. 0%、「どちらともいえない」が13. 3%、「いいえ」が0%、「非該当・無回答」が6. 7%という結果だった。自由意見では、「話せると思う」「そのような事態はまだ起こっていません」などがあった。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	10	1	2	2
「はい」が66. 7%、「どちらともいえない」が6. 7%、「いいえ」「非該当・無回答」がそれぞれ13. 3%という結果だった。自由意見では、「そのような事態は今のところ起こっていません」などがあった。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目		
	カテゴリ1		
1	リーダーシップと意思決定		
	サブカテゴリ1(1-1)		
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○非該当
	カテゴリ1の講評		
	オリジナルの教育プログラムを園名に冠し理念を示し、そのための教材をつくっている 本園の園名、ウィズブックは、「with book」つまり本とともにということだが、それは本園の創業者が自らの経験をもとに構築した教育プログラムの名でもある。本園の教育プログラム(ウィズブック)は、子どもの年齢ごとの発達に合わせて作られた毎月のオリジナル絵本を丁寧に読み聞かせ、子どもの言葉や心の発達を促そうというもの。実際その絵本は、例えば1歳児向けの絵本では「これなあに」「はいどうぞ」など、その時期にふさわしい言葉のやりとりを主にした極めて親しみやすいものになっており、本園の保育の確かな土台になっている。		
	オリジナル絵本を使った毎日のルーティンが、園の理念の実践につながっている ウイズブックプログラムでは、朝の会やおやつの後など生活の切り替えの場面で月ごとの絵本を読み聞かせる。繰り返しの言葉や対話をストーリーの中心に据えた絵本の読み聞かせは、子どもにとっては保育者とのつながりを感じながら、わかりやすく親しみやすい画面から視覚的な刺激と楽しみを得るよい機会になり、その繰り返しは子どもと保育者との親しい愛着関係を築くだろう。こうした経験を0歳から重ねることで、子どもの心を育み、その後の子ども自身の成長、可能性を伸ばしていく。毎日の保育のルーティンが、園の理念にしっかりとつながっている。		
	本社と園との協働により会議体制が整えられ、情報共有や話し合いが行われている 意思決定とその共有に関しては、本社と園の協働による会議体制が整えられている。運営会社の系列園の園長全員が集まる園長会議では、全体方針についての共有がなされる他、会社の中に職員育成、マニュアル見直しなどのプロジェクトもおこなわれている。また園の職員会議では、園長会で決められたことを共有するだけでなく、職員間の行事に関する話し合いなど職員間の話し合いを重視している。また大きな行事のあとの午後を活用した全職員の会議も年に3回行っており、職員会議が上から下への伝達だけでなく、現場の声を上げていく機会にもなっている。		

2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行 サブカテゴリ1 (2-1) 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6		
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している ○非該当 ●あり ○なし 2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している ○非該当 ●あり ○なし 3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している ○非該当 ●あり ○なし 4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している ○非該当 ●あり ○なし 5. 事業所の経営状況を把握・検討している ○非該当 ●あり ○なし 6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している ○非該当		
サブカテゴリ2 (2-2) 実践的な計画策定に取り組んでいる サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5		
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している ○非該当 ●あり ○なし 2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している ○非該当 ●あり ○なし 3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている ○非該当		
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している ○非該当 ●あり ○なし 2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる ○非該当		
カテゴリ2の講評 園長会や園のアンケート、見学者からの意見聴取など、利用者の意向を丁寧に拾っている 本園の立地する地域は都心の便利な住宅地。有名な商店街もすぐ近くにあり、地域にはこの沿線特有の賑わいや文化がある。そうした中、子育て家庭からは保育者の言葉かけ、散歩中の安全対策などさまざまな要望が出されるが、園は、区の園長会を通してそのニーズを把握し対応している。また園としても親子参加の行事のあとには常にアンケートを行い、行事の実施場所や時期を変更するなど迅速に対応した。その他、見学の際に出た意見に対応し、本社主導でオンラインで英語体験の時間をつくるなど、利用者の意向を丁寧に汲み取り実践につなげている。 日々の保育実践に直結する、具体的な中長期計画が立てられている 中長期計画においても、絵本を中心に据えた独自の教育プログラム＝ウイズブックプログラムをしっかりとその中に位置付け、保育の計画につなげている。園の中長期計画は3か年のスパンで定められ、たとえばその中の「保育」の項目では、毎月の絵本からいろいろな遊びの体験ができるよう立案する、実物や写真を取り入れより想像しやすくするといった具体的な指標を示しつつ、職員へのウイズブックプログラムの浸透を謳っている。日々の保育実践に直結する具体的な中長期計画が立てられている。 絵本を軸にした保育プログラムに基づいて計画を立て、楽しみながら実践している 実践的な計画の作成という意味でも、本園のプログラムは特長的である。例えば「はっぱみつけた」という絵本の月には、絵本をきっかけに葉っぱさがし、葉っぱの冠づくり、葉っぱの制作というように、絵本をきっかけにして子どもたちが興味・関心を伸ばせるように計画が立てられるのだ。また「しっぽ」の絵本の月にはしっぽ探し散歩を企画、当然周囲にはそれほど多様なしっぽの持ち主はおらず実際の発見は犬と猫だけだったそうだが、こうした遊び心のある計画をたてられるのも絵本で培った豊かな感性があるからだろう。理念に基づいた計画実践である。		

3			カテゴリー3	
経営における社会的責任				
サブカテゴリー1(3-1)				
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる			サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる				
評点(〇〇)				
評価		標準項目		
●あり ○なし		1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし		2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。		○非該当
サブカテゴリー2(3-2)				
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている			サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている				
評点(〇〇)				
評価		標準項目		
●あり ○なし		1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		○非該当
●あり ○なし		2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている				
評点(〇〇)				
評価		標準項目		
●あり ○なし		1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		○非該当
●あり ○なし		2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		○非該当
サブカテゴリー3(3-3)				
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている			サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる				
評点(〇〇)				
評価		標準項目		
●あり ○なし		1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし		2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している		○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている				
評点(〇〇〇)				
評価		標準項目		
●あり ○なし		1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている		○非該当
●あり ○なし		2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している		○非該当
●あり ○なし		3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる		○非該当

	カテゴリー3の講評
	丁寧な研修を通して、福祉人・社会人としての倫理意識・人権意識の向上に努めている 福祉人としての倫理遵守において本園の特長な取り組みは、本園を運営する本社が主催するスタートアップ研修。同研修では、保育園の存在意義から社会人として守るべきルール、本園独自の教育プログラム＝ウイズブックプログラムのことなど、1日かけて丁寧に学ぶ。またこの研修は必要に応じて各自が動画で見返すことができるようになっている。入職時の丁寧な職員研修を通して、福祉人・社会人としての倫理意識・人権意識の向上に努めている。 自己評価と日々の話し合いを通して保育を振り返り、倫理意識を高めている 利用者の権利擁護や虐待防止、人権意識の向上に関しては、自己評価と日々の話し合いで意識を高めている。各自が行う自己評価には不適切保育につながる言葉かけ、強くなる言葉かけといった項目があり、日々の保育の中での自らの言葉遣いについての気づきを促している。またそれを受け園では、例えば「どういうときにそうなるか」というようにテーマを設け、毎月の園内研修で話し合うという。またこうした話し合いは全職員が回り持ちでリーダーを務めており、それぞれが受け身的ではなく主体的に、自分ごととして考える仕組みになっている。 地域とのつながりをつくり、今後さらに発展させていきたいと考えている 本園は0～2歳児の園ではあるが、園児たちは積極的に散歩に出て、自らの行動範囲を広げながら地域とのつながりの基礎を築いている。実際、果物の絵本の月には近くのお店に果物を買に行き、お店の人たちと交流したという。そうした日々の積み重ねを経て、本園では現在、地域の町内会に所属し、町内会メンバーとして回覧板が回ってくる関係性ができている。本園の立地する地域では、公園や緑道、商店街、消防署や図書館など徒歩圏に多様な地域資源がある。今後こうした地域、町内会とのつながりを発展させていきたいと園は考えている。

4			リスクマネジメント		カテゴリー4
サブカテゴリー1(4-1)					
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる				サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる 評点(〇〇〇〇〇)					
評価		標準項目			
●あり ○なし		1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている			○非該当
●あり ○なし		2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている			○非該当
●あり ○なし		3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している			○非該当
●あり ○なし		4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる			○非該当
●あり ○なし		5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる			○非該当
サブカテゴリー2(4-2)					
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている				サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている 評点(〇〇〇〇)					
評価		標準項目			
●あり ○なし		1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている			○非該当
●あり ○なし		2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している			○非該当
●あり ○なし		3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている			○非該当
●あり ○なし		4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している			○非該当
カテゴリー4の講評					
都市部に特徴的なリスクを想定した訓練を行い、日々の保育の安全につなげている 自然災害があまり想定できない地域にある本園では、日々の保育の中の散歩における安全確保をリスクマネジメントの重要テーマと考え、丁寧なシュミレーション、訓練を行っている。公園でのお散歩中、人数確認で一人足りなかったらどう動くか、自園児が(他園児に紛れてしまったらどうするか、不審者がいたらどうするかなど、具体的な状況をつくり、そこでどうすべきかを考えて訓練をしている。実際、不審者対応では不審者役も設けてリアルに行ったという。都市部に特徴的なリスクを想定した訓練を行い、日々の保育の安全につなげている。 子ども自身の安全を守る力を伸ばし、日々のリスクマネジメントにつなげている 保育におけるリスクマネジメントとして、子ども自身の力をつけることに注力している。看護師が中心となり子どもたちに手洗いを指導、2歳児からはうがいも指導しうがいを実践。散歩においては出発前のお話でその都度、手をつないで道の端を歩く、信号をよく見て渡るなど、子どもたちに交通ルールや自身の安全を守る術を伝えている。そうした日々の教育の成果か、2歳児クラスの園児たちは(本園の)最年長児としての意識を持ち、自身の安全を守る力をしっかり身に付けている様子である。子ども自身の力をつけるリスクマネジメントである。 保育者の感性を重視したヒヤリハットの取り組みで、保育の安全を創り出している 「声をかけて止めるだけでなく、どのように遊べば良いのかをやり方を見せながら伝えていく」。これは本園のヒヤリハット記録の中にあった記述だ。本園は日々の保育の中のリスクヘッジとして保育者の気づき、感性が大切と考え、ヒヤリハット記録とその共有を行っている。保育アプリの入力ではなくあえて手書きとしているのは、気づいた瞬間、感じた瞬間に言葉にすることを重視しているからだ。実際この取り組みを通して意識は高まり、子どもの行動への予測力がついたという。この記録は看護師が職員会議でまとめて話し、職員間で共有している。					

5 職員と組織の能力向上			カテゴリー5
サブカテゴリー1(5-1)			
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当	
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当	
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当	
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当	
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当	
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当	
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当	
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当	
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当	
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当	
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当	
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当	
サブカテゴリー2(5-2)			
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当	
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当	
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当	

	カテゴリー5の講評
	園と本社の協働で、人材の確保・育成を行っている 人材の確保・育成において特長的なのは、園と本社との協働。園で新たに人が必要な場合、園長は本社の担当者に要望を伝え、本社が採用活動を開始、園は応募者からの連絡受け面談を進め、本社との打ち合わせを経て採用に進んでいくという。現場の意向を尊重した採用システムである。また育成においても、本社がさまざまな新人向け、中堅向けといった形で研修動画を作成し、職員が常に同じ質の学びを得られるようにしている。実際本園の職員も、こうした研修動画をよく見ているという。園と本社の協働で、人材の確保・育成を行っている。 一人ひとりの「いいところ」を言葉で表すことで、良好な人間関係を作っている 職員の意欲の向上という点で本園が重視しているのが、それぞれの個性を認め合いながら、互いのよいところを見つけそれを言葉に出して共有すること。個性には得意なことだけでなく不得意なことも含まれるが、その中で「いいところ・よくできたところ」を積極的に見つけていくことを日常的に行っているのだ。実際、日々のコミュニケーションの中でのこうした意識付けの結果、言葉にするのが上手になり、言葉でたくさん伝えるスキルが身についてきたという。人と人とのつながりと、それを言葉にすることを大切に、丁寧な取り組みである。 良好な職員チーム・協力体制を守るため、徹底したハラスメント防止に取り組んでいる 「ハラスメントは許しません!」。本社から出された書類には、どんな場合においてもハラスメントが許されないということが、熱く詳細に語られている。ひとたびハラスメントが起きると、職員チームは根底から崩れてしまう。本社のこうしたメッセージは、防止規程に記されているというレベルとは一段違う強さで、それぞれの職員の意識を高めていることだろう。また同文書には、本社の対応部門・相談窓口も示されている。本社によるハラスメント防止への徹底的な指導と取り組みが、本園の温かな協力体制を下支えしている。

7		事業所の重要課題に対する組織的な活動	カテゴリー7
サブカテゴリー1(7-1)			
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている			
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)			
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ) 職員の入れ替わりが多い中、保育の質の向上を目指す上で、子ども一人ひとりの理解にばらつきがあるという課題が見えてきた。どうすれば子ども理解を深め共有できるか。園はそこで、子ども一人ひとりについてクラス内でじっくりと話し合う「クラス会議」を新設した。園全体で行う職員会議の前に各クラスでその月の子ども様についてしっかりと話し合うことにしたのだ。クラス会議では、子ども一人ひとりについて「今月はこうだった。来月はここを目指そう」といった形で話し合い、現状の把握と見通しが持てるようになり、それを職員会議で出し合うことで全職員での共有につながったという。子ども一人ひとりに目を向けた結果、「〇歳クラスだからこれができなくてダメ」というような固定観念を排して考えることができ、一人ひとりの興味・関心を見極めながら個に応じた適切な支援を考えていくことが、より適切なクラスの保育計画・実践につながった。実際、運動会を見越したサーキット運動遊びでは、従来は一本橋を渡りトンネルをくぐるといった定番の動きだけだったところに、子どもの興味を取り入れバスケットゴールを導入するなどしたところ、より楽しみながらできるようになったという。			
目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった		
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である		
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である		
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評 保育の質の向上を目指すための第一歩として、まず、子ども理解とその共有に取り組んだ手法を評価したい。本園は運営理念の第一に『子どもの無限の可能性を引き出し、「その子らしさと自ら伸びるチカラ」を育む』ということを謳っているが、子どもの意欲を引き出し、子どもが主体的に関われるような環境づくり、保育計画づくりには何が必要なのか、一人ひとりの子どもをしっかりと見られているかと自問し、子ども一人ひとりに目を向けたのだ。「〇歳クラスだからこれをやる、従来やってきたからこれでいいはず」。こうした刷り込みに基づく計画は、手っ取り早いようで実は保育を困難にする原因になりがちだ。そこで本園では、クラス会議を新設し、まずはクラスで個々の子どもを見つめなおし、その理解・把握を全園で共有した。そして時々の子どもの関心や発達に基づいた保育計画を立て、子ども一人ひとりを大切にしたい保育実践につなげていった。こうした取り組みを経て、園は今、「しっかり子どもを見て、その子に合わせた声掛けはできている。声掛けや保育の内容が、子どもにより近づいてきた。他のクラスの先生も、同じように質の揃った声掛けができている」という手応えを感じている。			

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

地域の子育て支援・園児確保の両面から、まず地域に本園を知ってもらい、地域とのつながりを創り出すことを課題とし、地域との関わりづくりに積極的に取り組んできた。まずは日常の保育の中の地域交流活動として、勤労感謝の日に地元の警察署や消防署、嘱託医を訪問、子どもたち同士の交流としては地域の系列園や近隣保育園との交流を開始し、互いに遊びに行ったり来たりする関係になった。町内会にも加入し、園のイベントは地域の掲示板や子育てプラザに掲示し周知、地域への露出を多方面で増やすことで認知度は上がり、イベントへの参加者は増え入園希望にもつながったという。またクリスマス制作やボディペインティングなどの特別イベントも地域の系列園との協働により年4回実施した。園見学でも、その機会を利用した保育体験や子育て相談を行うなど、地域のご家庭とのつながりも強化した。園見学ではあえて朝の絵本の時間(ウイズブック)に見学を設定、0・1歳児が絵本の読み聞かせを受ける姿に驚きの声が多く上がるという。地域とのつながりを創りつつ、自園の保育の特長・理念も周知し、園への理解も深めてきたのだ。

目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評価の選択に関する講評

子どもたちの散歩の延長線上にある地域との交流、近隣園との連携による子どもたち同士の相互交流、系列園との協力による地域イベントの開催、園見学を活用した保育体験や子育て相談など、可能な機会をすべて使って全方向的に地域との関係づくりに取り組んだ手法と、それらの取り組みが常に自園の理念に基づき相互に関連していることを評価したい。本園は運営理念の第二に『私たちは、「子育てに頑張る保護者様や家族の成長」に寄り添い支援する存在であり続けます』と謳っているが、本園が取り組んだ地域との関わりづくりは、そのまま地域の保護者や家族に寄り添うもので、園と家庭の協働、個々の家庭と地域とのつながりを生み出すものだ。園での子どもたちの活動や交流のお知らせから、家庭はより地域を知り、地域とのつながりを感じるようになり、見学時に集団で暮らす子どもの姿を見ることは、良好なモデルを示すという意味で、何よりの子育て支援になるだろう。園はこの地域との関わり創りの取り組みに手応えを感じ、今後さらに発展させていきたいと考えている。子どもたちの経験を豊かにしながら、園と家庭、園と地域、家庭と地域のつながりを創り出す取り組みのさらなる発展が楽しみである。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当	
●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当	
●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当	
サブカテゴリ1の講評			
ホームページで、本園の特色ある保育をわかりやすく丁寧に伝えている ホームページのトップで、本園の保育の特色である「ウイズブックプログラム」について伝えている。絵本が乳幼児の成長に大切なこと、子どもと向き合う大切さを伝える、子育て世代に向けてのメッセージと合わせ、動画で丁寧に発信されている。それに加えて、園の概要や基本情報等もわかりやすく紹介されている。このような発信が園の理念や活動内容の理解につながり、利用希望者にとって安心感や共感を呼び、園への興味関心を高めていることが想像できる。園は、このような特色ある保育の情報発信を重視している。 園を知ってもらうために園見学や外部イベントを計画し、さまざまな情報発信をしている ホームページやSNSを活用した情報発信に加え、園見学や、土曜日開催の季節ごとの外部向けイベントを定期的に行っている。さらに、近隣の児童館や掲示板にポスターを掲示することで、近隣の方にも広くお知らせ情報を届けている。園見学は、利用希望者から特に日時の指定がない限り、午前中の保育活動園(ウイズブック活動)が行われる時間帯に行っている。また保育体験も受け入れており、体験者からは「ポスターを見て参加できるのを知った」といった反響をもらっていることから、ポスター掲示の効果も表れている。			

サブカテゴリー2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリー2の講評		
入園前には、園が必要な情報やルールを丁寧に説明している 入園前には、対面式で入園説明会を実施している。日程については、保護者の都合に合わせて柔軟に対応している。説明会は個別に行い、園のルールである重要事項をはじめ、園のしおりを基に項目ごとに丁寧に説明をしている。保護者の質問や疑問などにも不安にならないよう分かりやすく回答し理解を得ている。保護者からの質問や要望について検討が必要な事案については、後日回答するようにしている。より丁寧な回答を心がけていることが保護者との信頼関係を生むと同時に、園全体の保育の質の向上につながっている。 全職員が、全園児の情報を共有し、子ども一人ひとりの特性を理解している 保護者に記載してもらった児童票や健康記録、面接の際、聞き取りをした情報などをICT化システムに記録し、全職員で共有する仕組みが導入されている。このシステムを活用することで、個々の子どもに対して適切な支援や保育が行えるようにしている。新年度前に情報を共有することで、職員が子ども一人ひとりの成長や特性を理解し保育を行っている。園生活に無理なく馴染めるよう「慣れ保育」を行う。その目安は一週間だが、泣いてしまい水分や食事ができない場合には、保護者と相談の上、期間を延長するなど、子どもの情緒の安定を大切に考えている。 園からのお知らせをわかりやすく発信することが、保護者の安心感につながっている 園の運営について入園前に説明を行っているが、季節ごとの行事や、変更事項等の周知についてはその都度必要に応じて発信するようにしている。例えば、水遊びの準備物や園との共有事項について、保護者が適切に準備ができるように情報を提供している。その際、ICT化されている発信手段であるアプリを活用したり、園内にポスターを掲示し保護者と共有を行っている。それにより、保護者がいつでも確認することができる環境を整えていることで、保護者と園との連携が強化され、円滑な運営が実現されている。		

サブカテゴリー3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 13/13
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	○非該当
評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当
サブカテゴリー3の講評		
子どもの情報記録を全職員で共有し、個別対応の強化を図っている 入園前に保護者に記入してもらった家庭状況・活状況表を基に、家庭環境や養育状況を把握している。この情報は日誌や児童票に記録し、継続的に意識し対応できるよう活用している。ICT化されている連絡帳には、日常の様子、食事、排泄、睡眠時間などを記載し毎日発信している。送迎時の保護者対応においても、園での様子をエピソードを交えて伝えることや、会話の中での子どもや保護者のニーズをしっかり捉え、その対応内容を記録に残すことを心掛けている。児童の状況の変化や課題が解決した際には児童票にも反映させている。		
子ども一人ひとりの発達課題を把握し、個別計画を見直し全職員で共有している 本園では、3歳未満児の保育を行っており、指導計画は一人ひとりの成長や発達を促す必要な支援を行うために、指導計画を立案している。例えば、指先を使う動きが苦手な子どもの計画は、シールなど指先を使った遊びを取り入れた活動をねらいとし、他にもさまざまな遊びを計画する。このアプローチにより、子どもたちの個々の特性や発達段階に応じた適切な支援が可能となり個別計画を通じて柔軟に対応し子どもの成長に合わせた保育を行うようにしている。職員間での情報共有と協力により保護者との連携にもつながっている。		
子どもの様子を伝える園内掲示が保護者とのコミュニケーションの一助となっている 本園は、保育の見える化を意識した取り組みの一環として、ポートフォリオを活用し、園内に活動の様子を掲示している。その際、「活動のねらい」を明記し保護者が子どもの成長や学びの過程を確認できるようにしている。また、保護者会では、クラスの指導計画や子どもの発達段階を記載した資料を配布し保護者と共に子どもの成長を共有している。保護者が保育の内容に関心を持ち、共に子どもの成長を見守ることができる環境づくりをしようという取り組みだ。今後も園と家庭との関係を強めながら特色ある保育への理解を深めていくことが期待される。		

サブカテゴリ5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
サブカテゴリ5の講評		
おむつ替えスペースや着替え時の工夫を通して、プライバシー保護に努めている 子どものプライバシー保護に丁寧に取り組んでいる。おむつ替えのスペース設定では、トイレや廊下に面しているドアに目隠しをし、全体に見えないように配慮、また着替え時も窓のカーテンを閉め外から見えないようにするなど、プライバシーの保護を徹底している。また保育室には、子どもの絵が描かれた小さな手作りパーティションもあった。ほんの小さな目隠しではあるが、小さい子にとっては大きな安心感になるのだろう。さまざまな工夫を重ね、子どものプライバシーの保護に努めている。 睡眠リズムや離乳食など、家庭の個別事情に応じた丁寧な対応を行っている 家庭での生活に配慮した保育という点では、本園ではきめ細やかな対応を行っている。例えば睡眠リズムが整わないといった場合では園での午睡時間を調整、離乳食の進展がはかばかしくないケースでは面談を行い、家庭での状況を確認し完了食に向けて進めていくなど、それぞれの事情に配慮しながら、丁寧に個々のニーズに応え保育をしている。こうしたきめ細かな対応は、保護者の安心感につながり、課題の解決に向けてともに歩んでいくことで相互の信頼感にもつながるだろう。家庭の事情や価値観、ニーズに応えた丁寧な取り組みである。 保育者自身がテーマを立てる園内研修での学びを、子どもの権利の尊重につなげている 「言葉かけ」「子どもたちの見えている世界を見てみよう」「非認知能力」「食事量」…。これらは本園が毎月行っている園内研修のタイトルだ。この園内研修はそれぞれ職員が担当となり話をし、全員でそれについて話し合う形で行われている。テーマも各自が設定するという仕組みの中で、こうした子どもへの理解、保育者の関わりについて話し合われていることは意義深く、こうした意識が本園の、子ども一人ひとりの権利を尊重した保育につながっていることは間違いない。職員一人ひとりの能動的な学びと話し合いで、子どもの権利と意思を尊重している。		

サブカテゴリー6			
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当	
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当	
サブカテゴリー6の講評			
保育運営から保健衛生までを網羅した運営マニュアルを整備し保育の安全を支えている 本園では、本社主導で保育運営業務の標準化のための運営マニュアルを策定している。同マニュアル、園の運営方針や理念、職員の勤務ルールや行動指針、新年度準備、日常生活の安全対策や事故防止、各年齢における安全上の留意点、虐待防止、保護者支援など保育・運営に関する項目から、感染症予防、それぞれの症状別の対応フロー、活動の中の留意点や手順など、保健衛生に係る項目まで、およそ保育の中で確認すべきすべての項目が1つのファイルに網羅されている。わかりやすく整理されたマニュアルが、本園の保育の安全を支えている。 現場での機能性を重視し、明解で使いやすいマニュアルがつくられている 本園のマニュアルの特長として挙げておきたいのが、現場での機能性を重視した構成になっていること。例えば園児の体調不良への対応としては、「登園を控えるのが望ましい場合」「保育が可能な場合」「保護者への連絡が望ましい場合」といったように段階別にそれぞれに該当する症状例が示される。またその下段には、実際のケアのポイントとして、何がきっかけなのか、どんなことを想定すべきなのかといった考察のポイントとともに実際の対応フローが示されている。現場での機能性を重視し編集意図により、明解で使いやすいマニュアルとなっている。 本社主導による見直しプロジェクトにより、必要に応じてマニュアルが改訂されている 現場での機能性を重視した本園・本社のマニュアル策定において、策定に次いで重要になってくるのが、実情に応じた見直しだが、本園では、必要に応じて本社が見直しプロジェクトを設立し検討を重ねていく形で見直しを行っている。実際、現在はその見直し作業中で来年度を踏まえ改訂新版が出る予定だという。単独園ではなかなか難しい面があるこうした見直しも、本社主導で各園の力を合わせる形で行える。マニュアルの改訂においても、本社と現場の協働が効果的に作用している。			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サブカテゴリー4	
サービスの実施項目	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 35/35
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている 評点(〇〇〇〇〇)・非該当1	
評価	標準項目
☒ あり ☐ なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている ☐非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している ☐非該当
☒ あり ☐ なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している ☐非該当
☒ あり ☐ なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している ☐非該当
☒ あり ☐ なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつきの等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている ☐非該当
☐ あり ☐ なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している ☒非該当
評価項目1の講評	
子どもたちの個性を尊重し、自由な表現を促す保育を行っている 本園では、子どもの「らしさ」を伸ばす保育を大切にしている。例えば制作活動では、子どもが自分で好きな色や素材を選ぶようにし、自分の個性や感性を表現できる機会を提供している。また、職員が意図した活動に興味を持たない場合には無理に参加させることなく、その子どもが楽しく過ごせる場所や、玩具を用意し、自由に表現できる環境を整えている。子どもたちが自分のペースで、興味や関心を持ちながら活動することを大切に、個々の発達を尊重した保育を行っている。 子どもの気持ちに寄り添いながら、一人ひとりの社会性を育てている 子ども同士のトラブルが起きた際、ケガにつながるような場合にはすぐ止めているが、それ以外の場合には、子どもの気持ちに寄り添いながら互いの気持ちを代弁し、理解し合えるようサポートしている。子どもたちが自分たちでやりとりをして子どもなりに解決できた時には、子どもと一緒に共感し、その経験を子どもの学びの一環として、子どもたちが他者との関わりのなかで成長できるよう支援している。また、専門機関(児相、区の巡回指導)と連携し日々の保育に取り組んでいる。その中で出された配慮事項を全職員で共有し、日々の保育に反映させている。 子ども一人ひとりの発達や特性に応じた保育環境づくりに期待したい 本園では、子どもの在籍数に対して職員の体制が充実している。これを踏まえ、子どもの発達や個性に合わせた環境や活動を、さらに柔軟に考え実践できるように取り組んでいきたいと考えている。特に4月生まれと3月生まれでは発達が11カ月の差があり、興味関心やできることできないことに大きな違いがある。この差を踏まえ遊びの環境をもう少し柔軟につくり、子ども一人ひとりの特性にあった遊び込める環境の支援を行うことが望まれる。全職員で意見を出し合い、子ども一人ひとりに適した保育環境づくりに取り組んでいくことに期待したい。	

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている			評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している		○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している		○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている		○非該当
評価項目2の講評			
子どもの様子を家庭と園で共有しながら、安定した園生活が送れるようにしている 登園時に、保護者には、前日の家庭での様子や当日の朝の様子、健康状態などを口頭で確認し、その情報を「連絡ボード」に記録して担任間で共有している。さらに、デジタルツールを活用して、全職員が子どもの情報を共有できる体制を整えている。保護者のお迎え時には、毎日、アプリの連絡帳を通じて、その日の子どもの様子が保護者に伝わるように、必ず具体的なエピソードを交えて話すようにしている。これにより保護者は子どもの一日をより理解できるため、園で得た情報を家庭での生活にも役立てることができる。 子どもの発達に合わせた柔軟な保育活動が子どもの意欲を育てている 子どもが身体を十分に使って遊ぶよう午前中の保育活動は散歩や運動遊びを中心に活動を行うようにしている。また遊びへの意欲を継続できるように設定保育では二つの活動を用意、子どもの興味や状況に応じて遊びを充実させるために保育環境設定を工夫している。また、子どもの発達段階に応じて遊び、給食、午睡などの活動時間が異なるため、個々の生活リズムに合わせ無理のないよう対応できるように見直しながら保育を行っている。例えば睡眠が短い子どもが目覚めた後、静かに過ごせる場所や遊びが用意されている。 全職員で連携し合いながら、子どもたちの成長を支えている 本園は、0歳から2歳児までの子どもの保育を行っているが、職員体制も充実しており、職員同士で会議や連絡ボードで全園児の情報を共有できている。基本的な生活習慣の自立や発達、興味関心など子ども一人ひとりの差は幅広いが、深い子ども理解と丁寧な関わりによって、子どもの状態に合わせて柔軟に対応し、成長を促す適切な援助を行っている。そうした中で育まれる子どもの安心感や意欲が、子どもの自信につながっているのではないかと。全職員で子どもたちの健やかな成長を大きく支えている。			
3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している			評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している		○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている		○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている		○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している		○非該当
評価項目3の講評			
子どもが主体的に遊ぶよう、玩具類はいつでも使えるようになっている 本園では、保育理念を基に設定保育と自由遊びを保育計画に組み込み、子どもたちが自分のやりたいことや遊びたいものを自由に遊べる環境を整えている。各クラスの玩具棚は、子どもの目の高さに合わせて設置されており、子どもたちが自分で手に取って遊ぶことができるようになっている。また、子どもたちが、保育室の窓を通して外の景色を楽しみ、テラスに出て遊ぶ環境は天候に関係なく活用できる。また、散歩も含め、外遊びの時間は子どもの興味関心を引き出し、豊かな成長を育んでいる。 地域の人や子ども同士の自然な関わりを大切に保育活動を行っている 園長は、職員が子どもの気持ちを尊重し、冷静に対応する姿勢を持つことの大切さを強調している。玩具などの取り合いなどの場合では、ただ手を出した子に注意するのではなく、その背景にある感情や状況を理解し、適切に援助できることが求められている。このような対応は、子どもの自己表現を尊重し、子どもの成長を支えるために非常に重要である。また、近隣の園でのイベントや近隣の方と日々の挨拶などの関わりも、コミュニケーションや社会性を学べる貴重な機会となっている。 子どもの自由な表現を促す遊びの環境づくりを意識しながら保育を充実させている 子どもとの関わりの際、子どもと目を合わせることを大切にしている。目を合わせることで、子どもは自分が見守られていることを感じ、安心感が得られている。また、子どもが発した喃語や、言葉を繰り返すことも意識的に行っている。これは、言葉の学びの一環として、子どもが自分の言葉に対して反応を得られることが、言語能力の発達を育んでいる。子どもが指差しなどで興味を示したのに対してその名前をゆっくり伝えるようにしている。例えばバナナの写真を見せながら「バナナ」と伝えている。視覚的な理解と学びに繋がっている。			

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	☐ 非該当	
評価項目4の講評			
子どもが楽しいと感じる遊びを行事に取り入れるようにしている 季節の行事は、子どもたちの成長を促す機会と考えている。行事前には、取り組みたい内容の遊びを行ったり、関連する絵本の読み聞かせを行い楽しめるように無理なく進めている。夏祭りなどの行事の際は、園内に装飾をし、視覚的にも楽しめるよう雰囲気づくりに配慮している。基本は保護者参加型の行事であることから、当日は保護者同士の交流の機会にもなっており、家庭とのつながりを深めている。日々の保育では、友だちや保育者と歌やダンスなどを楽しみ、興味関心を持ち取り組めるよう工夫しながら行い、子どもたちの感性や意欲を育てている。 日常保育の中で、子どもたちが好きなことに意欲的に取り組めることを大切にしている 年齢ごとに、発達段階に応じた遊びができるよう工夫している。例えば0歳児室では、友だちや保育者と過ごしながらか、安心感を感じ心地よく過ごせる環境を提供、安定した空間の中で子どもが安心して自分を表現できるよう配慮している。1歳児室では平行遊びと協働遊びをバランスよく取り入れられ、ボールやブロック遊びを通じて「できた」という達成感と一緒に遊べる楽しさを感じられるようにしている。2歳児室では簡単なルール遊びを取り入れ、運動遊びや散歩などを通じて教え合ったり頑張りを認め合う雰囲気を作りをしている。 保護者には、行事の取り組み過程や詳細を発信し当日の期待に繋げている 一か月以上前より、行事に関するアンケートや、準備物についてのお知らせをアプリを活用し発信している。これは、保護者に対して早めに情報提供し、子どもたちの様子やその際の必要な協力を伝えるためであり、また行事を忘れずに意識できるよう、事前の連絡や口頭での声掛けも重要視している。こうした配慮を通じて、保護者が行事に期待を持ち参加できるようサポートしている。			
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている			評点(〇〇)
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	☐ 非該当	
評価項目5の講評			
子どもが主体的に過ごせる環境を用意し、安定した生活が送れている 長時間保育はほぼ固定の利用者であるが、急な家庭の事情や就労事情によりお迎え時間が送れる場合があり、そのような時は子どもに理由を丁寧に伝え安心して保護者の迎えを待てるよう配慮している。合同保育や延長保育では、子どもの利用人数に応じてコーナーをつくりパズルや粘土、ボール遊びなども取り入れ楽しく過ごせるようにし、常に臨機応変に環境を調整している。また、玩具の入れ替えを行うことで、子どもたちの遊びへの意欲が途切れないように配慮し、遊びの環境を常に新鮮で魅力的に保つようにしている。 職員間で子ども一人ひとりの理解・把握を深め、保護者に丁寧に伝達している 全園児について職員全員が理解を深め、どの職員が引き渡しを行っても、保護者に子どもの様子を含め、情報を伝達できるようにしている。日々の連絡ボードや、会議等で、各クラスからの子どもの情報の共有を行う他に、デジタルツールでも共有されている。クラスの連絡ボードにも伝達事項が記入されたものを確認し、保護者へ情報が確実に伝わるよう配慮されており、安心して園に子どもを預けることができる。 合同保育における異年齢の関わりによって、子ども同士の関わりが深まっている 合同保育でも、日常保育と同様に子どもが主体的に遊ぶことができる保育環境があることが重要と考え、子どもが安心して長時間過ごせる環境や玩具や、ゆったりくつろげるようなゴロゴロできる環境を用意している。長時間保育や朝の合同保育の時間は異年齢での合同保育を行っているが、この異年齢の環境が、(日常のクラス保育では見ることのできない)年上の友だちの姿を真似てやろうとする姿を見たり、年下の子への思いやりや優しさを体験したりといった貴重な学びの場となり、社会性や協調性が育まれる大切な機会となっている。			

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している			評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している		○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている		○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している		○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている		○非該当
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている		○非該当
評価項目6の講評			
一人ひとりの子どもが意欲的に食事を楽しめるようにしている 食事のスペースと遊びのスペースをしっかりと分けることで、子どもたちが食事に集中でき、落ち着いて楽しむことができる環境を整えている。食事やおやつは手洗いやエプロンの準備ができたら食べられるようにしている。食事形態に応じて子どもを少人数に分けることにより、一人ひとりの様子をよく把握しやすくなる点も工夫されている。また食事中は大人が大きな動きはしないようにするなど、食べる雰囲気を大切にしている。クラス担任が食事スペースに付き一人ひとりの喫食状況を確認、子どもにとって快適で安心できる食事環境になっている。 アレルギー児への給食提供を安全に行うために保育者と給食職員が十分な確認をしている アレルギー食の対応においては医師の指示書を基に家庭との面談、毎月の献立表を確認しながら丁寧に聞き取りを行い記録をしている。その情報は担任だけでなく調理室職員を含め全職員が昼礼や職員会議、デジタルツール等でいつでも共有できるようになっている。配膳時の配慮としてクラス担任と給食室職員とで確認を行いチェックを行う。子どもに提供する際は担任間で確認し三段階の確認を行い適切に提供している。食器についても、アレルギー食とわかる色を変えトレイにはアレルギー食品を明記するなど可視化し間違いがないよう十分な配慮を行っている。 野菜スタンプ遊びを通して、食材への興味を引き出し五感を育む保育を行っている 食育活動における「野菜スタンプ遊び」は子どもたちが食材に興味を持つ良い工夫である。月齢や発達段階に合わせた活動を工夫することは子どもたちの心情や意欲を引き出すために大切であり、そのためには保育者間で話し合い、子どもたちの反応や興味を観察しながら柔軟に計画を立てることが大切である。食において視覚や触覚、嗅覚など様々な感覚を使うことで子どもは自然に学びながら食の楽しさを感じていく。色鮮やかな野菜を使ったスタンプ遊びが、視覚的な興味を引き出し、食材への興味を深めている。			
7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している			
			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している		○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている		○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている		○非該当
評価項目7の講評			
園生活やさまざまな遊びを通して、子どもが自分を守ろうとする力を育んでいる 子どもが自分を守ろうとする力は、大人が先回りして教えるものではなく、子ども自身が遊びの中で経験を重ねながら自然に身に付けていくものである。それには全身を十分に使って遊び筋力や体力をつけることと共に、さまざまな遊びを通して、危険を察知し適切に対応する力を養うことが大切だ。そのため本園では、近隣の公園へ積極的に散歩に出かけ、戸外での遊びの中で子どものそうした力を育んでいる。子どもたちが経験の中で学び、自ら力をつけていくことを重視しているのだ。 全職員は、子どもの健康状態を常に把握し、その変化にすぐ気づけるようにしている 午睡時は、乳幼児突然死症候群防止のため、寝ている子どもの様子が一目で分かるよう室内を暗くしないよう配慮をしている。また、午睡担当者を配置し、5分に一回の間隔で、呼吸、体位、顔色などのチェックを行い記録をしている。保育活動中に、急な発熱、嘔吐、ケガなどがあつた際には、看護師と園長へ報告をするとともに、保護者にもその状況を伝えるため連絡を入れ迎えに来てもらうようにしている。園生活において、子どもの健康記録や健康観察のために必要な事項や対応方法について、閲覧しやすくまとめられたマニュアルが配備されている。 園と家庭が協力しながら、子どもの健康管理を大切に保育をしている 0歳児クラスは、毎月、嘱託医による健康診断を実施している。この健康診断を通して園は子どもたちの健康状態を確認し、気になる様子があれば即座に医師に相談し適切な指示を仰いでいる。医師からの指示に基づき必要な対応を行うと共に、健診後には保護者にその結果を報告し状況を共有している。医師の診断で改めて受診が必要な場合には、保護者に丁寧に説明し病院受診を促している。また個別対応が必要な場合、定期的な家庭との面談を行い変更事項や配慮などをすり合わせ、園と家庭が協力し子どもにとって最適な支援ができるようにしている。			

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている			評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている		○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている		○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている		○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている		○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している		○非該当
評価項目8の講評			
日々の登園時には子どもの健康確認と保護者との情報共有を大切に保育をしている 登園時には、子どもの健康状態や前日の様子について、保護者から口頭での聞き取りを行い確認している。この確認を通じて子どもの健康状態を早期に気づくことができ、必要な対応を講じることができている。その際、連絡帳を基にした確認を毎日行うことを共に習慣にし、確認事項が漏れないようにしている。またお迎え時には、必ずその日の子どもの様子がわかるようエピソードを踏まえ詳細に伝えるようにしている。保護者との連携を密にし、子どもの成長や健康管理において、保護者と園が共に協力し合う体制を整えている。 行事や懇談会の機会が保護者同士の交流が子育ての安心感に繋がるよう工夫している 園の職員との信頼関係はとても重要であり、保護者同士が関われる機会を用意することも園としての大きな役割であることから、運動遊び会、親子遠足、各季節に1回以上は保護者が参加できる機会をつくっている。それらは親子参加型の内容であり、保護者同士が自由に関われるような工夫がされている。また保護者懇談会は、園から提案日程についてアンケートを実施し保護者の意向を反映させた開催日を決定している。またその際には園での活動の様子を動画で見てもらい、子どもの成長を視覚的に確認できることで安心して子育てができるよう支援している。 保護者の急な就労や家庭の事情で保育時間が延長になる場合も柔軟に対応している 保護者の急な就労や、お迎え者が変更になるなど、家庭の事情で保育時間が延長になる場合も柔軟に対応している。そのような場合は、保護者から事前に連絡をもらうようにし、園の職員が把握できるよう情報を共有し対応している。そのような場合には、保護者のニーズを受け入れ、園長に報告し、適切な対応ができるよう指示を仰ぎ子どもを安全に引き渡せるようにしている。日々の保育の様子をポートフォリオとして記録し、アプリや玄関に掲示し親子で見えしめるように工夫している。			
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている			評点(〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している		○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人々の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している		○非該当
評価項目9の講評			
日々の散歩を通して子どもの経験を豊かにし、園と家庭双方の生活の輪を広げている 本園は交通至便な市街地にあり、周囲には公園や緑道、公共施設など豊かな社会資源がある。こうした恵まれた環境を生かし、本園の子どもたちは毎日のように散歩に出、一步一步の歩みの中で自分の世界を広げていっている。家と園を行ったり来たりする毎日の生活の中で、園を中心にして子どもの生活の輪が少しずつ広がり、それが家庭に還元されて家庭生活の中でも生活の輪が広がっていく。こうした生活の広がりが、子ども自身の経験を豊かにするだけでなく、家庭と地域とのつながり、子どもの世界観の広がりにもつながっている。 子どもの力と可能性を信じた活発な園外活動により、子どもの自信と自立を育てている 近隣の図書館に歩いて行って本を借り、借りてきた本を返しにまた図書館に行く。散歩の出発時には安全な歩き方や留意点を伝え、ルールを守って安全に歩けるようにする…。このようにまとめる一見、年長児や小学生の活動のように聞こえるが、本園では、これは本園の最年長児である2歳児の活動である。このように本園では、年齢の刷り込みにとらわれず、子どもの力と可能性を信じ伸ばす形で、2歳児クラスが活発な園外活動、交流活動を行っている。その結果としての豊かな経験は子どもたちの自信になり、自立した子どもの姿になって現れている。 仲間意識が芽生える2歳児クラスにおいて、近隣保育園との交流を行っている 保育園に通い始めた子どもたちにとっては、家庭と園が主な生活の場となり、子どもたちは園と家庭という2つの軸で自分が今生きている世界・関わりを認識していく。そうしたなか本園では、近隣の保育園との協力により、互いに園を訪問したりされ、いっしょに遊ぶ機会をつくっている。自分たち以外に(同じような)子どもたちがいて、その子たちの暮らしがあるということを知る経験は、子どもにとって貴重な他者理解、また自らの振り返りの機会になるだろう。またそれが、仲間意識が芽生える2歳児クラスで行われていることも大変意義深い。			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	1-1-1	事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している
タイトル①	園名にもなっているオリジナルの教育プログラムの実践で自らの理念を周知している	
内容①	本園の朝のルーティンは、本社が作成したオリジナル絵本の読み聞かせ、ウイズブックの時間だ。本園を運営する本社の創業者が自らの保育経験をもとにオリジナル制作した毎月の絵本は、子どもの発達に合わせた言葉かけや認知につながる、使いやすく親しみやすい構成になっており、その絵本の時間は本園の保育の基礎となり、そのまま理念実現の場になっている。絵本を通して保育者と子どもたちが毎日重ねる楽しい時間は子どもと保育者との信頼関係を築き、その確かな土台をもとに子どもたちは「自ら伸びるチカラ」を育てていく。力強い理念の実践である。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	2-2-2	着実な計画の実行に取り組んでいる
タイトル②	絵本から立ち上げた楽しい計画とその豊かな実践で、子どもの可能性を伸ばしている	
内容②	自然の変化に気づかせるためには、葉っぱを見つけていく絵本、子どもの関わりを促すためには、「はい、どうぞ」というリフレインの絵本、人の気持ちを理解し共感を育むためには、お月さまがいろいろな表情をしていく絵本、ユーモラスにしっぽの持ち主を探す絵本…。こうしたオリジナル絵本をもとに本園では日々の保育を計画し、絵本での出会いを子どもたちの確かな経験につなげている。絵本から立ち上がった計画は教育的というよりもむしろ子どものワクワク感を重視した楽しいものになっており、子どもの可能性を伸ばす豊かな実践につながっている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-9	地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている
タイトル③	子ども自身の力を伸ばす積極的なチャレンジで楽しみながら子ども生活の幅を広げている	
内容③	地元の警察署や消防署、嘱託医を訪問、図書館で本を借り本を返しに行く、近隣の保育園を訪れ共に遊び、また近隣園の子の訪問を受ける…。本園ではさまざまな形で園児が地域や地域の人たちと関わる機会をつくっている。こうしてまとめると年長児や幼児クラスの取り組みとってしまうのがふつうだが、本園は0～2歳児クラスまでの園であり、これらはすべて2歳児クラスの園児たちの実践だ。本園では年齢による刷り込みを排し、何にでも積極的にチャレンジする形で2歳児の活動の幅を広げてきた。子ども自身の力を伸ばす、力強い取り組みである。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	オリジナル絵本を中心にした独自の教育プログラム＝ウィズブックプログラムを楽しく実践し、子どもの心と経験を豊かにしている
	内容	「このしっぽだれかな？」という絵本を読んでしっぽに興味を持ち、実際のしっぽ探しに出かけてみた。そうしたら犬と猫に出会った。こんな微笑ましい活動を、本園では独自の教育プログラムに基づいた保育計画の下で実践している。毎月の保育の土台となるオリジナル絵本が、保育者の豊かな想像力や自由で遊び心のある計画につながり、子どもの心を自由に解放しながら意欲的な活動に結実しているのだ。魅力的な絵本から始まる楽しい保育と子どもたちの心の育ち。絵本を活用した楽しい保育の下で、子どもたちが豊かな経験を積んでいる。
2	タイトル	子どもたちの力を信じ、それを伸ばす形の健康指導・安全指導を通して子どもたちの自立を促し、安全で快適な園生活を創り出している
	内容	手洗いの大切さを伝える手洗い講座、うがいの大切さややり方を伝えるうがい講座、健康や安全に関する絵本の読み聞かせ、日々の散歩の際の安全上の留意点の説明…。本園では、子どもの力を信じ、それを伸ばす形での健康指導、安全指導を行い、子どもたちがそれに応える形で力をつけている。こうした取り組みの結果本園の2歳児クラスの園児は、園の最年長児として自信をつけつつ、しっかりと自立を身に付けている。0～2歳児クラスからなる環境が、有効に作用しているのだ。自然な取り組みの中で子どもの力を伸ばし、安全な園生活を創り出している。
3	タイトル	子どもの気持ちを大切に丁寧な保育と良好な職員チームが子ども一人ひとりの成長を促し、温かな空気感を醸成している
	内容	職員体制が充実しており、職員全員が子ども一人ひとりの発達や個性を理解し、その時々思いや、やりたい気持ちを汲み取りながら、子どもが本来持っている力を引き出していくことを目標に保育を行っている。設定保育においては、子どもの気持ちを最優先に考えて、興味関心が何処にあるのかをしっかりと捉え、遊びの環境を考えている。子ども一人ひとりのペースに合わせた保育を実践している上、バランスの取れた職員チームが子どもの対応に良い影響を与えており、園全体に安心感と温かさがあることが素晴らしい。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	現在行っている積極的な他園との交流をさらにすすめ、自園の細やかな保育に規模の大きい園のメリットを取り入れてほしい
	内容	本園には、規模の小ささを生かした丁寧な環境づくりと落ち着いた空間での暮らしがあり、その中で子どもたちはしっかりと遊びこんでいる。また園外に出る活動では、近隣園や地域の系列園との交流もあり、子どもの経験を豊かにしている。そうした現状からの発展的な課題としては、さらなる系列園との連携があげられるかもしれない。規模が大きい園にはダイナミックな行事展開やさまざまな他者との関わりなど、大きなりのメリットがある。現状をさらに推進させる形で交流を広げ、細やかさとダイナミックさの「良いとこどり」につなげてほしい。
2	タイトル	卒園児と保護者が参加できるイベントや行事を企画し、在園時同様の温かな関わりを続け、継続的な保護者支援につなげてほしい
	内容	2歳児クラスまでという本園の構成上、本園の園児たちは本園を出て他園に進級していく。したがって本園では卒園後の子どもとの関わりをつくるのが難しくなる。しかし本園で豊かな経験を積んでいた園児たちの心には、本園の存在は大きく、とても大切なものになるだろうし、はじめての園生活を本園でおくった保護者に関してもその気持ちは同様だろう。今後は本園を出て他園に進んだ園児とその保護者が参加できるイベントや行事を企画し、在園時同様の温かなつながりを続けていき、継続的な保護者支援につなげてほしい。
3	タイトル	子どもたちの興味・関心と力を伸ばす形での食育活動の発展や、食を楽しむ環境づくりに期待したい
	内容	2歳児クラスの園児たちが、さまざまなことに取り組む中でしっかりと自立している現在の状況から、さらにもう少し欲張ってみたい課題のひとつとして、食育への取り組みがあげられる。テラスを使った栽培や、散歩の際の見学や買い物体験などを通して、子どもたちの食育や食への関心を高められれば面白い。またそうした活動を通して、子どもたち自身が食を楽しむ力を身に付けていければさらに有意義だ。子どもたちの興味・関心と力を伸ばす形での食育活動の発展と、さらに食を楽しむことができる環境づくりに期待したい。